
青の5号

並盛りライス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

青の5号

【Nコード】

N0263B

【作者名】

並盛りライス

【あらすじ】

少年達の理不尽な世界。その中で起きた、ほんの小さな青春群像劇

青の5号はいつも僕の味方だ…。

空気を媒介した熱が這うように都市を覆い。

今年の夏は、狂気のような暑さに見舞われた。

「暑いって言っただけ？」

「ああ、言っただんじゃねえの」

窓を取り外した部屋には、風なんてなくて、扇風機の首は下を向いたまま回り続けた。

西の方から、沢山の蠅がやってくる。ヘドが出るくらい綺麗な茜空が沈んでいるというのに、太陽の光を浴びすぎてイカレタ地面やコンクリートが熱病に侵されている。

「悪くない。」

「うん、悪くないかも。」

スプレーで真っ青に塗った紙飛行機は重たそうにひしゃけた翼を持っていて、飛びそうにない。

どうかしてほしいのは、ラジオ体操の放送で、高校生にもなつて毎朝スタンプを貰いにいくのは恥ずかしい。

心を踊る夏休みが待ちどおしかったが、今では早く夏休みが終わらないかとカレンダーに×印をつける日々だ。

所属する美術部は、部費を綺麗にアルコールに昇華して悔い潰し、粘土細工OR神飛行機しか作れるものはない。

空の色には程遠い、濃いブルーに彩られた青の3号。

「飛ばないな」

「飛ばない」

掛け合いのように、僕と後輩の竹下は地面を見た。

屋上の柵を飛び越えて、妙に不安定な足場から飛ばした青の3号は、失速するやいなや、まっ逆さまに転落した。

「やっぱり見た目より機能をつけるべきですよ」

「そうか？」

飛ばしたいという意欲に欠ける僕は、頭の中のカレンダーに×印をつけた。

浮き沈みのない、感情を押し殺した声は、竹下の目線くらい地面に近かった。

次の日、竹下が屋上から飛び下りた。

真っ青なブルーのアロハシャツに

「青の4号」

と汚くスプレーで落書きした竹下が飛び下りた理由は、僕には分らなかった。

夏が終わらない。

いつから夏が始まったのか思い出せない。いつまで夏が続くのか僕には分からない。

竹下は、両手を不自然に螺子曲げて、頭から地面に衝突していた。

赤黒い血液が、青いシャツを染めて、青の4号は紫になっていた。

紫になった唇を震わせていた部長が言っただけ。

「葬式には来なくていいそうだ。竹下の両親に断られた。」

先輩達は部費の使い込みの責任を、竹下に全て擦り付けて挙げ句、リンチしたそうだ。

ソーダ水の泡みたいな理由だと思った。

「気にしてないっすよ」

顔を腫らした竹下は、青の3号の丸っこい3を書きながら言

つ
た。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0263b/>

青の5号

2010年11月6日14時06分発行